

(第3種郵便物認可)

# 木材業 波乱の100年史

## 名古屋の大日本木材防腐発行



作品の前で100年史を紹介する鈴木社長(右)と画家の山本さん＝名古屋市港区の大日本木材防腐で

木材流通・加工大手の「大日本木材防腐」(本社・名古屋市港区)が創業から昨年で百年を迎えたことから、百年史「DMB1世紀の軌跡、明日へ繋ぐ」を発行した。木材業の浮き沈み、経済変動、相場の影響を受けながらも、事業継続し、発展してきた老舗企業の歩みがつづられている。

(梅田歳晴)

創業は一九二二(大正十)年。電柱や枕木などのインフラ資材メーカーとして事業を展開したが、昭和三十年代に電柱や枕木がコンクリート製品に移り、受注が激減。苦境に陥ったが、住宅用防腐木材土台を

開発し、輸入製品の独自セ

ールを開催するなど顧客拡大を図った。施工前に工場で木材を用途に合わせてあらかじめ加工を施しておく「プレカット加工」や防霉・防虫加工、薬剤販売など、住宅資材に軸足を移した。

同社の源流は、江戸時代創業の材木商「材摺」(堀川沿いの材木屋の集住地域に、初代惣兵衛が進出したのが始まりだ。一六九〇年から木材業を始めたときれる。五代惣兵衛の時代には名古屋別院再建事業に携わり、名古屋を代表する材木屋に成長し、尾張藩の御勝手御用達に任じられた。百年史の中で、こうした歴史や経緯が紹介されている。

また、百周年の事業として尾張旭市の画家山本あきさん(三)にも絵画の制作を依頼。山本さんは、和紙に力強い松の木を描き、アクリル絵の具でカラフルに仕上げた。作品は縦百五十六センチ、横二百八十五センチで、事務所一階の壁に飾られた。

山本さんは「長く続く会社は、周囲も発展させて、自らも発展する。いろいろな方に見てもらって初めて作品が完成すると思う」と話した。

十二代となる鈴木龍一郎社長(六)は「資料を検証し、事実に基づいて記されている」と百年史を評価。現在は経営に持続可能な開発目標(SDGs)の視点を取り入れており「環境や社会に貢献しながら発展させたい」と次の節目を見据えている。百年史は県図書館や名古屋市蓬左文庫、港図書館、熱田図書館、鶴舞中央図書館などにも贈った。